

4
南北の王
聖徒伝 117

「主を信頼して
平安を得よう」

歴代誌第二 14～16章

アサ王の生涯

アサ王の生涯 II 歴代誌14～16章

0. イントロダクション

I. クシュとの戦い 14章

II. アサ王の宗教改革 15章

III. アサ王の過ち 16章

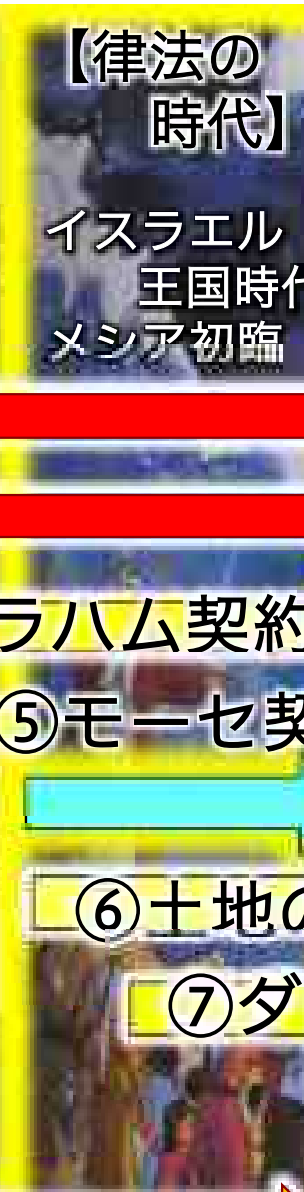
IV. まとめと適用

主を信頼して平安を得よう

罪の告白も主への信頼あってこそ



南部の荒野



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

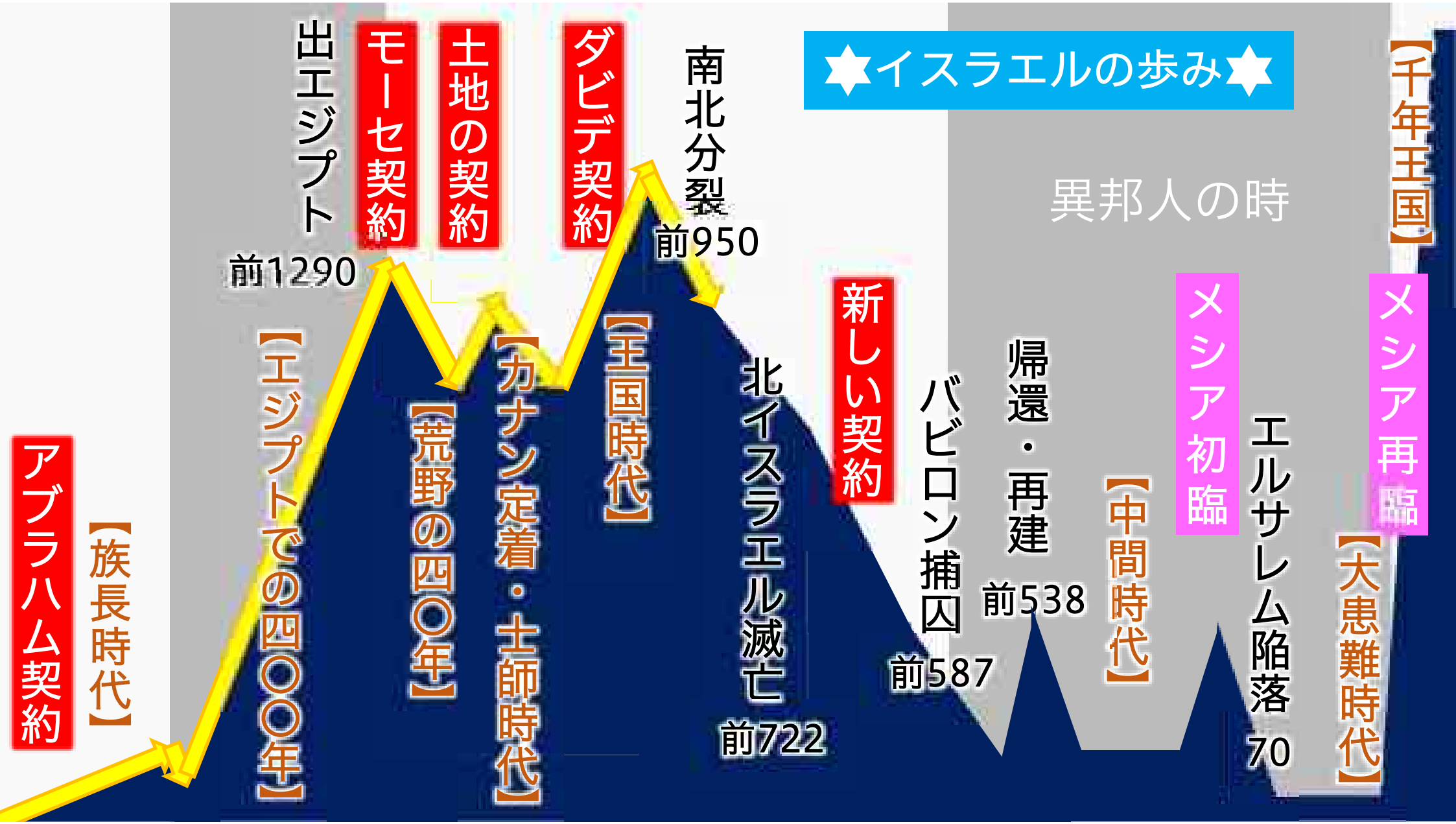
どの時代も
神の約束が礎にある

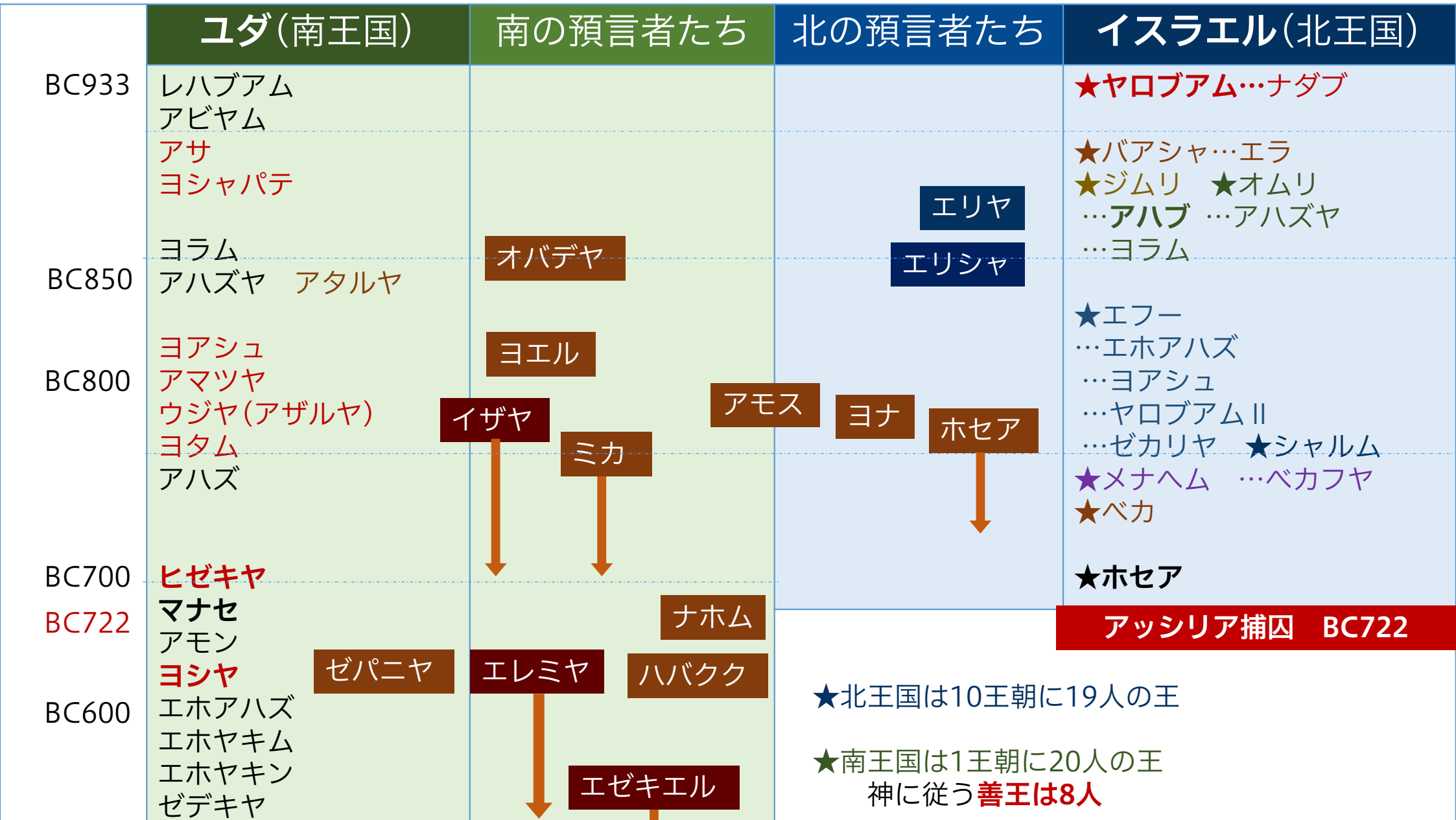
過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★





歴代誌第一

サムエル記第一

最後の士師サムエル
サウルの治世
ダビデの逃亡生活

サムエル記第二

ダビデの治世
ダビデ契約

← 歴代誌は
神殿の記述が中心

歴代誌第二

列王記第一

ソロモンの治世
王国の分裂
預言者エリヤ

← 神殿のある
南王国が中心

列王記第二

エリヤ～エリシャ
北王国滅亡まで
南王国滅亡まで

歴代誌の関心事は
神殿と礼拝

南北分裂・歴代誌情報① ～北から逃れたレビ人～

【Ⅱ 歴代11:13～15】

イスラエル全土の祭司たちとレビ人たちは、すべての地域から出て来て、彼(レハブアム)の側についた。

レビ人たちは、自分たちの放牧地と所有地を捨てて、ユダとエルサレムに来たのである。ヤロブアムとその子らが、【主】の祭司としての彼らの職を解き、自分のために祭司たちを任命して、彼が造った高き所と雄やぎと子牛に仕えさせたからである。

■北の祭司・レビ人たちは、解職されて南王国に移り住んだ。

→以降、北王国には、レビ人はおらず、偽祭司ばかり。

南北分裂・歴代誌だけの情報② ～北からの移住者～

【Ⅱ歴代11:16】 彼らの後に続いて、**イスラエルの全部族**の中から、イスラエルの神、【主】を尋ね求めようと心に決めた者たちが、その父祖の神、【主】にいけにえを献げるためエルサレムに来た。

■北の十部族の中から、主に忠実を貫き、**南へ移住した信仰者たち**がいた。彼らは、エルサレムで礼拝した。

➡“十部族は失われていない”

南北分裂・歴代誌だけの情報③ ～レハブアムの治世～

■ レハブアムは、最初の3年は、ダビデの道歩んだ(Ⅱ歴11:16)
→ アブサロムの娘 **マアカ** (偶像礼拝者) を妻として以降、脱線。

■ 王位を確立すると、主の**律法**を捨て、全イスラエルに悪影響を。
→ 神の裁きにより、**エジプト王シシャク**に攻め込まれる。
→ 神の前にへりくだり、財宝を奪われるが、**滅亡は回避**。

【Ⅱ歴代12:12】 王がへりくだったとき、【主】の怒りは彼を離れ、主は徹底的に滅ぼすことはされなかった。ユダにも良いことがあったのである。

← **残された信仰者たちの存在が!!**

南北分裂・歴代誌だけの情報④ ～二代目アビヤ～

【Ⅱ 歴代13:9】 あなたがたは、アロンの子らである【主】の祭司たちとレビ人を追放し、諸国の民に倣って自分たちのために祭司を立てたではないか。だれでも若い雄牛一頭と雄羊七匹をもって祭司職につこうとするなら、神ではないものの祭司となれたのである。

■ アビヤは、北との戦いに際し、**南王国の祭儀的正統性**を主張。

北軍は、倍の勢力で南軍を挟み撃ちにするが敗退。犠牲者50万人。

➡アビヤの時代には、**ヤロブアムの勢力は衰退する一方**だった。

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

イゼベル

【オムリ王朝】

オムリ

12年

アハブ

22年

アハズヤ
2年

ヤロブアムは
晩年には衰退

南王国が
優勢だった

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年



I. クシュとの戦い

II 歴代誌14章

荒野に流れる霧

【アサ王の即位】 II 歴代誌14:1~2

アビヤは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わって王となった。彼の治世になって十年の間、国は平穏であった。アサは、自分の神、【主】の目にかなう良いことを行った。

- 南の三代目アサの母は、二代目アビヤと同じく、アブサラムの娘マアカ(偶像礼拝者)だったが、アサは、南王国初の主に従う善王だった。

➔ 主に従い、主の律法を守った。



荒野で草をはむ羊

【砕かれた偶像】 II 歴代誌14:3～5

彼は異教の祭壇と高き所を取り除き、石の柱*を砕き、アシェラ像*を切り倒し、ユダの人々に命じて、彼らの父祖の神、【主】を求めさせ、その律法と命令を行わせた。

彼はユダのすべての町から高き所*と香の台を取り除いた。こうして、王国は彼のもとに平穩であった。

*偶像のシンボルの一つ。

*カナン土着の豊穰神。女神。バアルの妻。

*山や丘の上に作られた偶像崇拝の祭壇。

■レハブアム、アビヤ時代の偶像礼拝を撲滅した。



← 主に従った
ゆえの平穩

【固められた防備】 II 歴代誌14:6~7

彼はユダに防備の町々を築いた。【主】が彼に安息を与えられたので、当時数年の間、国は平穩を保ち、彼と戦う者はいなかった。

彼はユダの人々に言った。「さあ、これらの町々を建て、その周りに城壁とやぐらを巡らし、門とかんぬきを設けよう。この地はまだ私たちの前にある。私たちが私たちの神、【主】を求めたからだ。私たちが求めたので、神は周囲の者たちから私たちを守り、安息を下さったのだ。」こうして、彼らは町々を建設し、繁栄した。

■ 要塞化された町々が各地に建てられた。



【クシュ人の侵攻】 II 歴代誌14:8～9

アサには、大盾と槍を携えたユダの兵が三十万*、盾を持ち弓を引くベニヤミンの兵が二十八万*あり、これらはみな勇士であった。

さて、クシュ人*ゼラフが、彼らに向かって百万の軍勢と三百台の戦車を率いて出陣し、マレシャにまで攻めて来た。

*南王国単独で出エジプトの全イスラエルに匹敵

*エチオピア

➡ルブ人(リビア)との連合軍だった(16:8)

当時のエジプトはリビア王朝。



【アサの祈り】 Ⅱ 歴代誌14:10~11

アサは彼に対して出陣し、マレシヤにあるツェファテの谷で戦いの備えをした。

アサは自分の神、【主】を呼び求めて言った。

「【主】よ、力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたには変わりはありません。私たちの神、【主】よ、私たちを助けてください。私たちはあなたに拠り頼み、御名によってこの大軍に向かって来ました。【主】よ、あなたは私たちの神です。人間が、あなたに力を行使することのないようにしてください。」

■ 主の御名に依り頼み、主の栄光を求めたアサ。



マレシヤ近郊

【クシュへの勝利】 II 歴代誌14:12~13

【主】はアサとユダの前でクシュ人を打たれたので、クシュ人は逃げ去った。

アサおよび彼とともにいた兵は、彼らをゲラルまで追撃した。クシュ人は倒れ、生きている者はいなかった。【主】とその陣営の前に打ち砕かれたからである。兵たちは非常に多くの分捕り物を持ち帰った。

■ クシュ軍は、約40kmを敗走しながら全滅。

➔ アサ王率いる南王国は、倍の兵力に圧勝!!



【ゲラルでの略奪】 II 歴代誌14:14~15

彼らはまた、ゲラル周辺のすべての町*も打ち倒した。【主】の恐れがその町々にあったからである。彼らはすべての町で略奪した。そこには多くの略奪できる物があったからである。

また家畜の群れの天幕も襲い、多くの羊とらくだを奪って、エルサレムに帰った。

*ペリシテ人の地。クシュ軍に加勢していた？

■クシュ軍だけでなく、ペリシテの町々にも勝利。多大な戦果を納めた。



ゲラル近郊



II. アサ王の宗教改革

II 歴代誌15章

荒野の朝焼け

【報いを与えられる神】 II 歴代誌15:1～2

すると、オデデの子アザルヤ*に神の霊が臨んだ。彼はアサの前に進み出て、言った。「アサおよび、すべてユダとベニヤミンの人々よ、私の言うことを聞きなさい。あなたがたが【主】とともにいる間は、主はあなたがたとともにおられます。もし、あなたがたがこの方を求めるなら、あなたがたにご自分を示してください。もし、あなたがたがこの方を捨てるなら、この方はあなたがたを捨ててしまわれます。」

*“ヤハウエは助けられた”

主を求めて祝福を得るか
主を捨て、主に捨てられるか



【イスラエルの苦難の時代】 Ⅱ 歴代誌15:3～5

「長年の間、イスラエルにはまことの神もなく、教師となる祭司もなく、律法もありませんでした。

しかし、苦しみの中で、彼らがイスラエルの神、【主】に立ち返り、この方を慕い求めたところ、主は彼らにご自分を示してくださいました。

この時期には、出て行く者にも、入って来る者にも*平安がありませんでした。国々に住むすべての人々に数々の大きな騒乱があったからです。」

■悔い改めて立ち返ると主が救われた士師時代。

*移住者、寄留者も多かった。例) ルツ、ナオミ



サムソンの最期

【神の約束】 II 歴代誌15:6~7

「そして、国は国に、町は町に逆らい、彼らはともに打ち砕かれてしまいました*。神があらゆる苦しみをもって、彼らをかき乱されたからです。

しかし、あなたがたは勇気を出しなさい。力を落としてはなりません。あなたがたの働きには報いがあるからです。」

*イスラエルは争いの末、南北に分断され、

これまで以上に外国の脅威に脅かされている。

■主に従う民には、なおも報いが約束されている。



荒野の黒雲

【奮い立つアサ王】 Ⅱ 歴代誌15:8

アサは、これらのことばと預言者オデデ*の預言を聞いて奮い立ち、ユダとベニヤミンの全地、また彼がエフライムの山地で攻め取った町々*から、忌むべき物を除いた。そして、【主】の宮の玄関の前にあった【主】の祭壇を新しくした。

*“戻す者” *北王国と戦い、攻め取った町々。

■ 奮い立ったアサ王は、さらに偶像を取り除いた。

➡ 信仰者の成長とは、自らの罪を取り除き、きよめていく、その過程。



【王の下に集う信仰者たち】 Ⅱ 歴代誌15:9

彼は、ユダとベニヤミンのすべての人々、およびエフライム、マナセ、シメオンから来て彼らのもとに寄留している人々*を集めた。その神、【主】がアサとともにおられるのを見て、イスラエルから多くの人々が彼のもとに下って来ていたのである。

*信仰ゆえに、北王国から移住してきた人々。

■主に立ち返り、信仰に立つ王の下に、南北から、信仰者たちが集まってきた。

信仰に歩む者には信仰の同労者が与えられる



荒野を行く人々

【祭りに上る人々】 Ⅱ 歴代誌15:10~11

彼らはアサの治世の第十五年の**第三の月***にエルサレムに集まった。

その日、彼らは自分たちが携えて来た分捕り物の中から、牛七百頭と羊七千匹を【主】にいけにえとして献げた。

*三大祭の一つ、**五旬祭**の祭りの月

→**律法授与**を記念する日でもある

■五旬祭に主を礼拝するため全土から集った。

→南北時代にも、**律法を遵守**する信仰者たち。



【神との契約】 II 歴代誌15:12~13

彼らは**契約**を結び、心を尽くし、いのちを尽くして、父祖の神、【主】を求めることと、だれでもイスラエルの神、【主】を求めない者は、小さな者も大きな者も、男も女も、死刑にされることとした。

＊ここでの“契約”は、モーセ契約・律法の再確認。

「申 6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。」

「レビ24:16 【主】の御名を汚す者は必ず殺されなければならない。」



【誓いを喜ぶ民】 II 歴代誌15:14~15

彼らは大声で喜びの叫びをあげ、ラツパと角笛を吹いて、【主】に誓いを立てた。

ユダの人々はみなその誓いを喜んだ。それは、彼らが心のすべてをもって誓いを立て、ただ一筋に主を慕い求め、そして主がご自分を彼らに示されたからである。【主】は周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。

■主との契約・律法に立ち返った人々。

求める者に主はご自身を示し、安息を与える



【母マアカの退位】 II 歴代誌15:16~17

また、アサ王は、母マアカがアシェラのために憎むべき像を造ったので、彼女を皇太后の位から退けた。アサはその憎むべき像を切り倒して粉々に砕き、これをキデロンの谷で焼いた。

高き所はイスラエルから取り除かれなかったが、アサの心は生涯、全きものであった*。

*偶像礼拝になびかず、主への信仰を貫いた。

■母マアカすら退位、ソロモン以来、オリーブ山にあった偶像を徹底的に破壊。

高き所は残った



【平和の時】 II 歴代誌15:18~19

彼は、父が聖別した物と自分が聖別した物、銀、金、器を、神の宮に運び入れた。

アサの治世の**第三十五年***まで、戦いは起こらなかった。

■レハブアムの時、エジプトの略奪が。

民が多く献げ、アサ王は宝物倉を管理した。

■クシュの侵略以来、25年間、平和が続いた。

→南北時代では極めて希な、長期の平和。



Ⅲ. アサ王の過ち

Ⅱ 歴代誌16章

荒野の夕景

【バアシャの侵略】 II 歴代誌16:1～2

アサの治世の第三十六年に、イスラエルの王バアシャがユダに上って来て、ラマを築き直し、ユダの王アサのもとにだれも出入りできないようにした。

アサは、【主】の宮と王宮の宝物倉から銀と金を取り出し、ダマスコに住んでいたアラムの王ベン・ハダドのもとに送り届けて言った。

- 交通の要所ラマを奪われ、窮地のアサは、長年の仇敵アラムに庇護を求めた!!



北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

イゼベル

【オムリ王朝】

アハブ

22年

アハズヤ
2年

バアシャが
アサ王の最大
の脅威に

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年

【アラムの北王国侵略】 II 歴代誌16:3～4

「私の父とあなたの父上の間にあったように、私とあなたの間にも同盟を結びましょう。ご覧ください。私はあなたに銀と金を送りました。どうか、イスラエルの王バアシャとの同盟を破棄して、彼が私のもとから離れ去るようにしてください。」

ベン・ハダドはアサ王の願いを聞き入れ、自分の配下の軍の高官たちをイスラエルの町々に差し向けた。彼らは、イヨンと、ダンと、アベル・マイム、およびナフタリに属するすべての倉庫の町々を攻撃した。

■ アラムは、これ幸いと、北王国を侵略、略奪。



【アサの建てた要塞】 Ⅱ 歴代誌16:5～6

バアシャはこれを聞くと、ラマを築き直すのを中止し、その工事をやめた。そこで、アサ王はユダの人々をみな連れて行き、バアシャが建築に用いたラマの石材と木材を運び出させたうえ、これを用いてゲバとミツパを建てた。



【預言者ハナニ】 Ⅱ 歴代誌16:7~8

そのとき、予見者ハナニ*がユダの王アサのもとに来て、彼に言った。「あなたはアラムの王に拠り頼み、あなたの神、【主】に拠り頼みませんでした。それゆえ、アラム王の軍勢はあなたの手から逃れたのです。

あのクシュ人とルブ人は大軍勢ではなかったでしょうか。戦車や騎兵は非常に多くはなかったでしょうか。しかし、あなたが【主】に拠り頼んだとき、主は彼らをあなたの手に渡されたのです。

*“丁重な、慈悲深い”

依り頼むべきは主のみ!!



【アサ王による迫害】 Ⅱ 歴代誌16:9～10

「【主】はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、**その心をご自分と全く一つになっている人々**に御力を現してくださるのです。あなたは、このことについて愚かなことをしました。これから、あなたには数々の戦いが起こるでしょう。」

アサはこの予見者に対して怒りを発し、彼を牢獄につないだ。彼に対して、このことで激しい怒りを抱いたのである。アサはこのとき、民のうちのある者*を踏みにじった。

*預言者たちと、王に進言した信仰者たちだろう。



主と一つに
なっているか？

【アサ王への報い】 II 歴代誌16:11~12

見よ。アサについての事柄は、最初から最後まで、『ユダとイスラエルの王の書』にまさしく記されている。

アサはその治世の第三十九年に、両足とも病気になった*。それは非常に重かったが、その病気の中でさえ、彼は【主】を求めず*、医者を求めた。

*二年後に死亡。この病が死因となったか？

*問題は医者にかかったことではない。

■傲慢に囚われたアサ王の末路。

←ただ主を求め続けているのか



【アサ王の死】 II 歴代誌16:13~14

アサは先祖とともに眠りについた。彼はその治世の**第四十一年**に死んだ。

そこで、人々は、彼が自分のためにダビデの町に掘っておいた墓に彼を葬り、調合法にしたがって作った種々の香り高い香油で満ちた寝床に、彼を横たえた。そして、彼のために非常にたくさんの香をたいた。

- 晩節を汚したアサだが、民に惜しまれて死んだ。41年の在位は、ダビデ、ソロモン以上のもの。
“アサの心は生涯、全きものであった(15:17)”





IV. まとめと適用

主を信頼して平安を得よう
罪の告白も主への信頼あってこそ

荒野にかかる虹

【アサ王の生涯を振り返る】

- 母マアカはアブサロムの娘、偶像礼拝者。先代の兄アビヤも同様。しかし、アサ王自身は、偶像を忌み嫌い、徹底して打ち壊した。
- クシュ人を撃退し、さらに信仰を深め、律法への回帰を推進。北からも多くの信仰者が集まってきた。
- 晩年、アラムに依り頼む過ちを犯し、警告に激怒し預言者を迫害。両足の病を煩い、死去。
- 民は、アサの死を悼み、丁重に葬った。

【アサ王の救いを考える】

“アサの心は生涯、全きものであった(15:17)”

- アサ王は、主の約束を信じて救われた。その**救いは永遠**。
アラムに依存した罪の悔い改めに至らず、病死に至ったか？
- 信仰者も、**罪を犯せば報いがあり、悔い改めなければ最悪死に至る**。
例) 全財産を献げたと偽ったアナニア、サツピラ(使6章)
➡ それでも、神の永遠の約束ゆえ、救いは失われることはない。

「1 コリ 3:15 だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。」

【主の言葉に敏感に、心を開いていよう】

- アサの最も大きな過ちは、預言された神の警告を拒んだこと。悔い改めに至らず、むしろ、預言者を迫害し、進言する者を退けた。
- 痛いところを突かれれば、とっさに庇おうとするのが私たち。傷つきたくないと思うが、鋭く突き通すのが神の御言葉。

「ヘブル 4:12 神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。」

弱さを隠すな。裸で神の前に立とう。逃れる道はないと知ろう。

【信仰の道を歩み続けていくために】

- 頑なに拒むのが罪人の本性。悔い改めも主の恵みだと知ろう。
主に依り頼むなら、内住する聖霊が罪と向き合う私を助けられる。
- イスラエルを通して学ぶべきは、神の永遠の約束の確かさ。
主の恵みの深さ、広さを味わうことなくして、私の聖化もない。
日々、御言葉に打ち砕かれつつ、悔い改めに早い者で居続けよう。

Ⅰヨハ 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

罪の告白と赦しの特権に預かりながら、日々変えられていこう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

救(すく)われてなお、罪(つみ)を犯(おか)す私たちがいます。

自分のおろかさに向(む)きあう力を 聖霊(せいれい)によって

与えてください。

イスラエルを守(まも)り導(みちび)いた

主の永遠(えいえん)の約束(やくそく)に、わたしも ささえられています。

聖書(せいしょ)の学びを深(ふか)め、日々、身(み)をもってめぐみを

味わい、救いの確信(かくしん)を強めていくことができますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」